

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1994年度

1995年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の縁、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベッドタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務だと考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国並びに大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

池田市教育委員会

教育長 谷 口 梶 藏

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成6年度国庫補助事業(総額1,000,000円、国庫50%、府費25%)、として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第29次	池田市城山町2-18	平成6年10月11日～10月21日
池田城跡第30次	池田市建石町1978-8	平成6年12月13日～12月26日
3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課が実施した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作、辻美穂の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修)による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深勘なるご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I. 歴史的環境.....	1
II. 池田城跡発掘調査.....	5
1. はじめに.....	5
2. 池田城跡第29次発掘調査.....	7
3. 池田城跡第30次発掘調査.....	8

図 版

図版 1 池田城跡第29次発掘調査

- (1) トレンチ全景（東から）
- (2) トレンチ全景（南西から）

図版 2 池田城跡第30次発掘調査

- (1) トレンチ全景（西から）
- (2) トレンチ全景（南から）

図版 3 池田城跡第30次発掘調査

- (1) 井戸（南から）
- (2) 土坑（南から）

挿 図 目 次

第1図 遺跡分布図.....	2
第2図 豊島南遺跡焼失住居跡.....	3
池田城跡発掘調査	
第3図 調査地位置図.....	5
池田城跡29次発掘調査	
第4図 トレンチ位置図.....	6
第5図 トレンチ北面断面図.....	7
第6図 出土遺物実測図.....	7
池田城跡30次発掘調査	
第7図 トレンチ位置図.....	8
第8図 トレンチ平・断面図.....	9
第9図 出土遺物実測図.....	9

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山塊が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山塊より南には、標高50~100mの緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡と宮の前遺跡（螢池北遺跡）が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山塊西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、また、発掘調査では、昭和61年度の大坂府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

上述した伊居太神社参道遺跡において、縄文時代のサヌカイト製の石鏃が、五月山丘陵に位置する京中遺跡ではサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、また、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匕が、宮の前遺跡では石棒が採取されている。近年の発掘調査においては、池田城跡下層から晩期の生駒西麓庶民帯文土器が出土し、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない発掘調査が大規模になされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壤基等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上



- | | | | |
|------------|--------------|-------------|---------------|
| 1. 銀ヶ池遺跡 | 2. 古江北古墳 | 3. 古江北古墳 | 4. 吉田遺跡 |
| 5. 古江北跡 | 6. 木部遺跡 | 7. 木部1号墳 | 8. 木部2号墳 |
| 9. 木部桃山古墳 | 10. 室宮神社古墳 | 11. 伊丹太和山古墳 | 12. 第三室谷 |
| 13. 第三室谷古墳 | 14. 沢田城跡 | 15. 沢田茶臼山古墳 | 15. 五月ヶ丘古墳 |
| 17. 伏見北遺跡 | 18. 善磨1号墳 | 19. 善磨2号墳 | 20. 石墳南寺 |
| 21. 新柄北遺跡 | 22. 鹿舌舌頭遺出土地 | 23. 中京遺跡 | 24. 夏津北遺跡 |
| 25. 野田輝古墳 | 26. 鈴原古墳 | 27. 鈴原南遺跡 | 28. 黒原古墳 |
| 29. 石橋古墳 | 30. 二子塚古墳 | 31. 難波寺遺跡 | 32. 宇保須名津神社古墳 |
| 33. 宇治遺跡 | 34. 神田北遺跡 | 35. 驚異古墳 | 36. 門田遺跡 |
| 37. 神田南遺跡 | 38. 天神遺跡 | 39. 豊島南遺跡 | 40. 住吉宮の前遺跡 |
| 41. 吉の前遺跡 | 42. 笠置山遺跡 | | |

第1図 遺跡分布図

に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散らばり、小規模化する。

古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳が



第2図 豊島南遺跡焼失住居跡

挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に竪穴式石室を有する。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帶神獸鏡が出土した。また、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると高塚式の古墳はなくなり、かわって、小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しではあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、後白河院領として開発が推進された吳庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることにな

る。池田氏の居館であった池田城は、五月山塊から南方へ張り出した台地上の南麓に位置し、現在でも主郭は土塁や空堀が良好に残る。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。

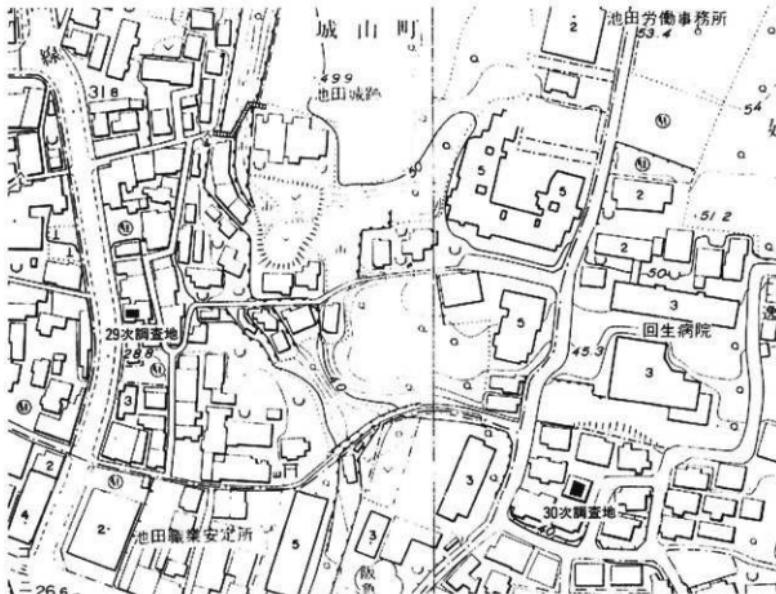
参考文献

- 坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各説編 1969年
宮田好久「考古学上に現れた池田」「新版池田古史」精説編 1971年
橋高和明「原始・古代の池田」池田市立池田中学校地歴部 1985年

II 池田城跡発掘調査

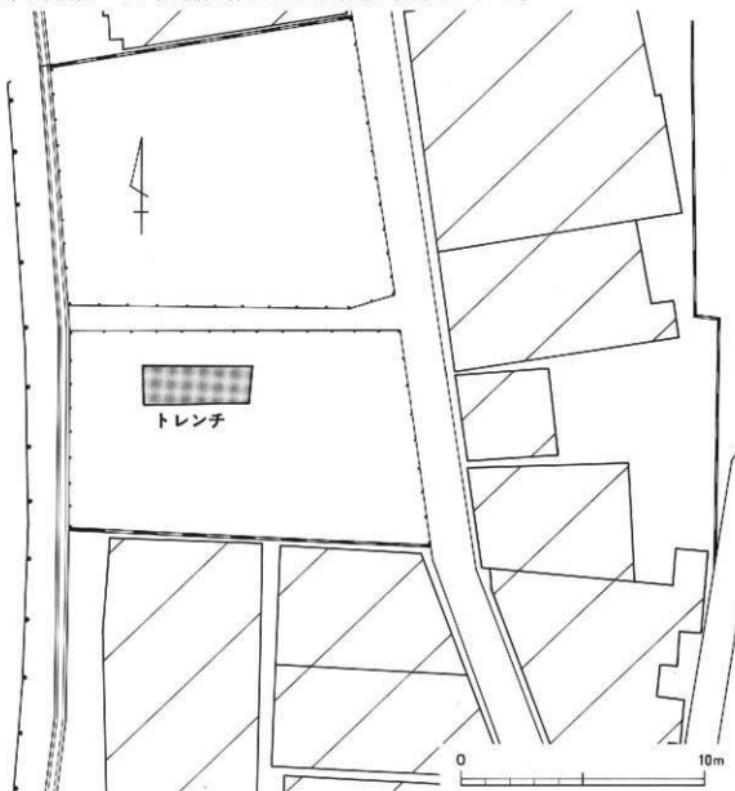
1. はじめに

池田市の城山町、建石町一帯に広がる池田城は、戦国期を中心とする国人池田氏の居城である。池田城跡は五月山塊から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地し、その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入団に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることになった。池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しほぼわせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査がな



第3図 調査地位置図

され、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明しつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されおり、また、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。



第4図 トレンチ位置図

2. 池田城跡第29次発掘

調査

調査の概要

発掘調査は池田市城山町2-18において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の西端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地裾部にあたる。調査面積は10m²である。

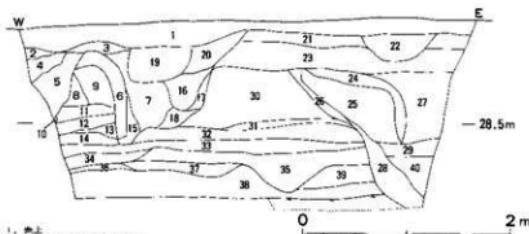
層序は細かくわかることができるのが、基本層位は第1層は表土、第2層は下の耕土を整地した層、第3層は耕土、第4層は黄褐色土で、僅かだが近世の土器を含む層。第5層は焼土を多く含む層、その層の下層には炭層がひろがる。第6層は黄褐色の砂質土、第7層は黒褐色の砂質土（地山）からなる。トレンチの断面において、第2層からは土坑、第3層からは東へ落ち込む遺構が確認できる。しかし第4層、以下の層からは遺構等は確認できなかった。

第5層下層の炭層の時期は池田城落城に関するものと考えられ、その後、間もない時期に第5層上層の焼土によって整地がなされたと考えられる。第4層に関しては、元禄10年（1697）池田村絵図から、この場所は既に区割りがされており、そのころには、第4層が整地がなされたと考えられる。第2層、第3層に関しては、安政4年（1857）池田村絵図からは、畠建家となつておらず、そのことから、元禄～安政間に一時期、畠（第3層）として使われ、安政4年に再度宅地化（第2層）されたと考えられる。

出土遺物

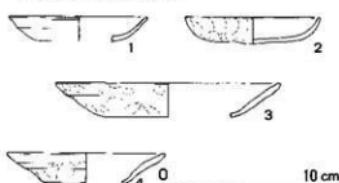
今回の調査で出土した遺物は少量で、図化できたものは4点のみである。

1・2はともに第4層から出土した土器皿である。1は口径93mm、器高17mmを測り、内外面ともナデが施されている。2は口径92mm、器高18mmを測る。内面はナデが施されており、外表面は指頭圧痕が残り、外表面口縁部付近は連続した指頭圧痕が残る。3・4はともに第5層から出土した土器皿である。3は口径152mm、器高23mmを測る大型の土器皿である。内面はナデ



- 1. 地上
- 2. 2.3Y 8 / 2 炭無色砂質土
- 3. 2.3Y 5 / 1 明るい褐色土
- 4. 2.3Y 5 / 2 黄褐色砂質土
- 5. 2.5Y 0 / 2 黄褐色砂質土（焼付なし）
- 6. 10Y R 4 / 1 地山 黒褐色土
- 7. 2.5Y T / 1 地山 黒褐色土（焼付なし）
- 8. 2.5Y 0 / 1 黄褐色砂質土
- 9. 10Y R 5 / 2 黄褐色砂質土
- 10. 10Y R 5 / 1 地山 黑褐色土
- 11. 10Y R 5 / 2 黄褐色砂質土
- 12. 5 Y 3 / 1 黄褐色砂質土
- 13. 7.5 Y 1 / 1 色深め粘質土
- 14. 2.5Y 6 / 1 リープル状色鉛筆J.
- 15. 2.5Y 6 / 2 黄褐色砂質土
- 16. 5 Y 7 / 1 黄褐色砂質土（焼付）
- 17. N E / 1 黄褐色砂質土（焼付）
- 18. 2.5Y T / 1 黄褐色砂質土（焼付）
- 19. 穴
- 20. 10Y R 5 / 2 地山 黑褐色土
- 21. 10Y R 4 / 1 地山 黑褐色土
- 22. 10Y R 4 / 2 地山 黑褐色土
- 23. 2.5G 7 / 1 売店跡地付近上 1~2cm黒灰土
- 24. 10Y R 6 / 2 地山 黑褐色土（焼付）
- 25. 10Y R 6 / 4 地山 黑褐色土（焼付）
- 26. 10Y R 6 / 4 地山 黑褐色土（焼付）
- 27. 2.5G 5 / 1 オーブン焼成跡付近上（焼付）
- 28. 2.5G 5 / 2 オーブン焼成跡付近上（焼付）
- 29. 2.5G 7 / 1 地山 黑褐色土（焼付）
- 30. 2.5Y 5 / 4 黄褐色砂質土（焼付）
- 31. 5 Y R 5 / 3 地山 黑褐色土（焼付）（土量少）
- 32. 2.5Y 5 / 3 地山 黑褐色土（焼付）（土量少）
- 33. 3 Y R 2 / 4 黄褐色砂質土（焼付）（土量少）
- 34. 10Y R 5 / 3 地山 黑褐色土（焼付）
- 35. 10Y R 5 / 2 地山 黑褐色土（焼付）（土量少）
- 36. 10Y R 5 / 2 地山 黑褐色土（焼付）（土量少）
- 37. 10Y R 4 / 4 黄褐色砂質土（焼付）
- 38. 3 Y R 4 / 4 黄褐色砂質土（焼付）
- 39. 10Y R 4 / 4 黄褐色砂質土（焼付）
- 40. 10Y R 5 / 1 黄褐色砂質土

第5図 トレンチ北面断面図



第6図 出土遺物実測図

が施されており、外面は指頭圧痕が残るが、外面口縁部付近は横方向のナデが施されている。4は口径107mm、器高21mmを測り、3と同じように、内面はナデが施されており、外面は指頭圧痕が残るが、外面口縁部付近は横方向のナデが施されている。

3. 池田城跡第30次発掘調査

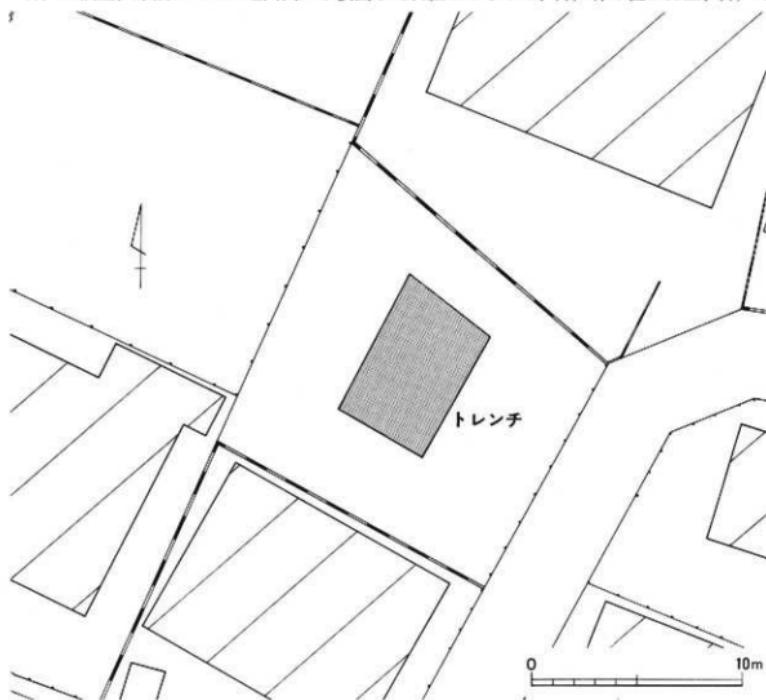
発掘調査は池田市建石町1978-8において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の中央に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出したなだらかな台地上にあたる。調査面積は42m²である。

調査の概要

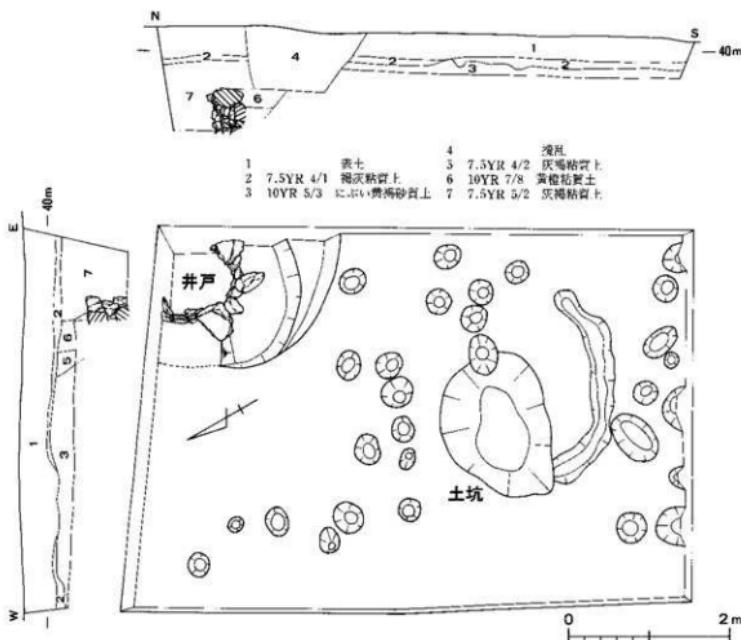
層序は3層からなる。第1層は表土、第2層は厚さ20cmを測る褐灰色の整地土で、出土遺物は土師器皿等が出土したが、極少量であった。第3層はにぶい黄褐色の地山である。

検出した遺構は柱跡、井戸、土坑等である。

井戸は調査区東隅において地山面から検出した石組みのもので、井戸枠の径が89cm、井戸の



第7図 トレンチ位置図



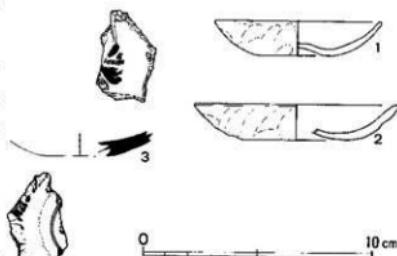
第8図 トレンチ平断面図

掘り方は調査区外に広がっており、全体の大きさは不明だが220cm程と考えられる。井戸枠内の埋土は黄橙色の粘質土が使われている。井戸枠内の埋土は井戸から深さ60cm程までは粘質土であるが、その深さ以下は拳大の石が詰められていることから、人為的に埋められたことがわかる。

土坑は調査区中央において地山面から検出したものである。大きさは、長軸195cm、短軸132cm、深さ55cmを測る。埋土は

黒褐色の粘質土で、埋土内からは僅かに弥生土器の小片が出土するのみである。

井戸、土坑のほかに調査区全体から柱穴を検出したが、建物跡の復元はできなかった。



第9図 出土遺物実測図

出土遺物

1・2は第2層から出土した土師器皿で、1は口径73mm、器高15mmを測り、2は口径88mm、器高15mmを測り、1・2ともに内面はナデが施されており、外面は指頭圧痕が残り、外面口縁部付近は連続した指頭圧痕が残る。3は表土採取遺物であるが、基筒底の中国製染付皿である。内面見込みには菊花文、外面には一条の界線の上に芭蕉葉文が描かれている。また外面疊付から底までは釉は施されていない。



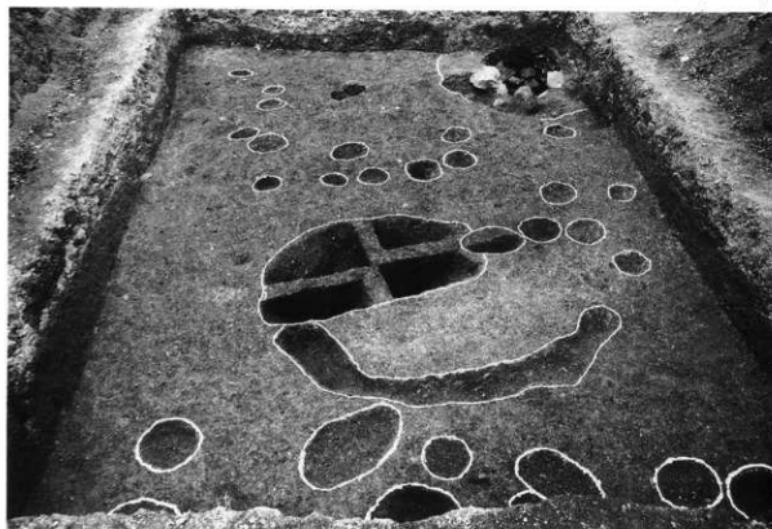
(1) トレンチ全景（東から）



(2) 北面土層（南西から）



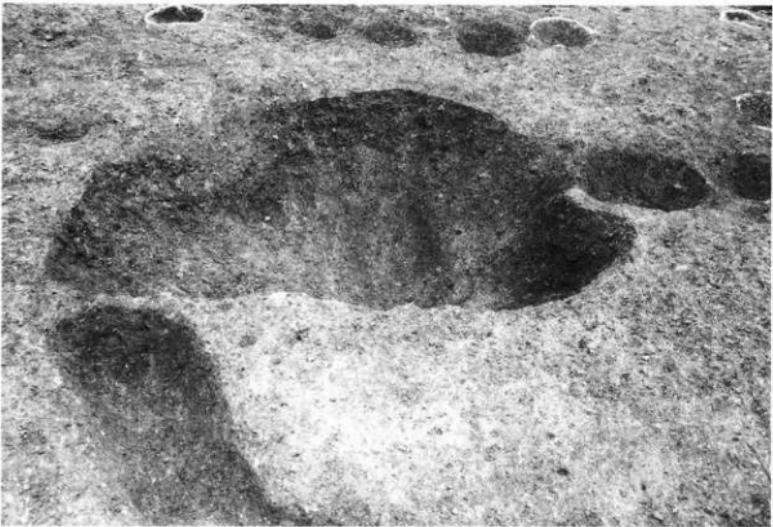
(1) トレンチ全景（西から）



(2) 同 上 (南から)



(1) 井戸（南から）



(2) 土坑（南から）



報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第20集
巻次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	20
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ☎0727-52-1111
発行年月日	1995年3月

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		
いけだじょう 池田城	いけだじたいしろやまちょう 池田市鹿石・城山町	272043		34度 49分 20秒	135度 26分 00秒	941011 941021	10m ²
いけだじょう 池田城	いけだじたいしろやまちょう 池田市建石・城山町	〃	—	34度 49分 20秒	135度 26分 00秒	941213 941226	42m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記	事項	
池田城	城館・集落	縄文 ～ 中世	焼土層	土師器皿	焼土層の検出。		
池田城	城館・集落	縄文 ～ 中世	井戸・土坑	土師器皿	井戸・土坑を検出。		

池田市文化財調査報告第20集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1994年度

1995年3月

発行 池田市教育委員会

池田市城南1-1-1

編集 社会教育課 文化財係

印刷 やまかつ株式会社